

第 62 回日本救急医学会関東地方会幹事会

2012 年 2 月 4 日 (土) 12 : 00 ~ 13 : 00

会場 : 日本青年館ホテル B1F 中ホール (第 1 会場)

議事録署名人の確認

新幹事推薦 (資料 1)

堀常任幹事長

報告事項

- | | |
|--|--------|
| 1. 庶務報告 (資料 2) | 矢口常任幹事 |
| 2. 2011 年度決算報告 (資料 3-①, 3-②) | 矢口常任幹事 |
| 3. 各常任幹事担当報告 | |
| ① 看護部会・JATEC™ (資料 4) | 山口常任幹事 |
| ② 救急隊部会 (資料 5) | 横田常任幹事 |
| ③ SOS-KANTO 委員会 (資料 6-①, 6-②) | 矢口常任幹事 |
| ④ 編集委員会 (資料 7-①, 7-②) | 森村常任幹事 |
| ⑤ ホームページ | 猪口常任幹事 |
| 4. 第 62 回日本救急医学会関東地方会報告 | 堀会長 |
| 5. 第 63 回日本救急医学会関東地方会
準備状況報告 (資料 8) | 坂本次期会長 |

審議事項

- | | |
|-------------------------|--------|
| 1. 2012 年度予算について (資料 9) | 矢口常任幹事 |
| 2. 名誉会員の推戴について (資料 10) | 堀常任幹事長 |
| 3. 次々期会長について (資料 11) | 堀常任幹事長 |

新幹事候補者リスト

	新幹事候補者名	所属
1	オンダ ヒデタカ 恩田 秀賢	日本医科大学付属病院 高度救命救急センター
	推薦者： 横田 裕行 日本医科大学 宮内 雅人 日本医科大学	
2	キムラ イチタカ 木村 一隆	日本赤十字社医療センター
	推薦者： 林 宗博 日本赤十字社医療センター 石松 伸一 聖路加国際病院	
3	オオシマ キヨヒロ 大嶋 清宏	群馬大学大学院医学系研究科
	推薦者： 山本 保博 日本私立学校振興共済事業団 東京臨海病院 饗場 庄一 群馬県消防学校救急科（前：前橋赤十字病院）	
4	キノシタ ヒロヒサ 木下 弘壽	横浜労災病院 救命救急センター
	推薦者： 織田 成人 千葉大学医学部研究院 救急集中治療医学 兼坂 茂 横浜労災病院 入会日： 2007年2月3日	
5	モチヅキ トシアキ 望月 俊明	聖路加国際病院 救急部
	推薦者： 石松 伸一 聖路加国際病院 大谷 典生 聖路加国際病院	
6	タナカ ヒロユキ 田中 博之	JR東京総合病院
	推薦者： 行岡 哲男 東京医科大学病院 救急医学 坂本 哲也 帝京大学医学部 救急医学	
7	ツボタ タカヤ 坪田 貴也	東邦大学医療センター大森病院 救命救急センター
	推薦者： 吉原 克則 東邦大学医療センター大森病院 救命救急センター 本多 満 東邦大学医療センター大森病院 救命救急センター	

	新幹事候補者名	所属
8	ソメヤ ヤスコ 染谷 泰子	JAとりで総合医療センター 中央処置室
	推薦者 :	木澤 晃代 筑波メディカルセンター病院 黒田 啓子 東海大学医学部附属病院
9	マツダ シゲル 松田 繁	順天堂大学浦安病院 救急診療科
	推薦者 :	射場 敏明 順天堂大学医学部 救急災害医学 田中 裕 順天堂大学医学部 救急災害医学
10	ナガヤマ マサオ 永山 正雄	国際医療福祉大学 熱海病院 神経内科
	推薦者 :	原田 俊一 国際医療福祉大学熱海病院 猪口 貞樹 東海大学医学部救命救急医学
11	アジミ ヤスヒコ 安心院 康彦	帝京大学医学部附属病院 救命救急センター
	推薦者 :	坂本 哲也 帝京大学医学部 救急医学 池田 弘人 帝京大学医学部 救急医学

2011 年度 庶務報告

(2011 年 12 月 31 日現在)

総会員数 :	1009 名	(新会員 181 名)
幹事	292 名	(新幹事* ¹ 14 名)
名誉	28 名	
一般 (医師)	429 名	(新会員 132 名)
一般 (看護師)	144 名	(新会員 38 名)
一般 (救急救命士)	6 名	(新会員 1 名)
一般 (臨床検査技師)	1 名	(新会員 0 名)
一般 (薬剤師)	1 名	(新会員 1 名)
一般 (放射線技師)	1 名	(新会員 1 名)
一般 (MSW)	1 名	(新会員 1 名)
一般 (その他)	2 名	(新会員 1 名)
一般 (不明)	104 名	(新会員 6 名)

*¹2011 年 2 月 5 日幹事会承認

退会者数 : 198 名 (うち 176 名は会費滞納による自然退会)

幹事	12 名
一般 (医師)	31 名
一般 (看護師)	50 名
一般 (救急救命士)	1 名
一般 (不明)	104 名

会員のご逝去 3 名

古谷 政一 先生	2010.12.1	ご逝去
山田 至康 先生	2011.2.12	ご逝去
塩田 敬司 先生	2010.7	ご逝去

日本救急医学会関東地方会 2011年度決算報告書
(2011年1月1日～2011年12月31日)

【収入の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
会費収入	6,000,000	6,403,000	403,000	幹事：10,000円・一般：5,000円
当年度・過年度収入		6,338,000		
前受会費収入		65,000		
雑収入		103,235		
広告掲載料	250,000	50,000	△ 200,000	50,000×1社
銀行預金利息	2,000	593	△ 1,407	
別刷代	100,000	52,642	△ 47,358	
収入合計	6,352,000	6,506,235	154,235	

【支出の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
事業費				
刊行費(発送費を含む)	2,500,000	2,558,561	△ 58,561	31巻分(2010年発刊)
地方会補助費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	北里大学50万、慶應義塾大学200万
会議費	500,000	537,674	△ 37,674	
常任幹事会		202,996		年2回開催(東京ガーデンパレス)
編集委員会		95,300		年3回開催(㈱へるす出版、日本救急医学会事務局)
会計監査		4,350		1月18日開催(㈱へるす出版事業部)
SOS-KANTO		7,200		年2回開催(1回は学術集会内)
看護部会運営委員会		227,828		年3回開催(東京ガーデンパレス、1回は学術集会内)
交通費	200,000	284,920	△ 84,920	
常任幹事会		52,000		
編集委員会		170,000		
事務局		5,920		
会計監査		8,000		
看護部会運営委員会		49,000		
印刷費	100,000	93,495	6,505	角2封筒作成代・事務局印刷費
ホームページ運営費	261,555	261,555	0	21,000×12ヵ月+ドメイン管理費9,555
事務費				
通信費	250,000	385,915	△ 135,915	
SOS-KANTO通信費		105,300		
切手代		17,400		
その他発送代		263,215		
業務委託費	672,000	672,000	0	
消耗品費	50,000	62,441	△ 12,441	長3封筒代：33,600円
租税公課	20,000	0	20,000	
振込手数料	10,000	11,275	△ 1,275	
予備費	200,000	200,000	0	北里大学補助金不足金分振込
支出合計	6,763,555	7,567,836	△ 804,281	
収支	-411,555	-1,061,601		
前年度(2010年)繰越金	18,660,605	18,660,605		
次年度(2012年)繰越金	18,249,050	17,599,004		

銀行口座	¥753,326
郵便口座	¥16,831,552
手持ち金	¥14,126
小計	¥17,599,004



監 査 報 告 書

日本救急医学会関東地方会の2011年度(2011年1月1日～2011年12月31日)における収支計算書、およびそれに付随する諸帳簿について必要な監査手続きを実施した結果、2011年度の経営状況を適正に表現しており、かつ会計手続きに不正のないことを認める。

以上

2012年 / 月 / 18日

日本救急医学会関東地方会

監事 大橋 敬良 監事 兼坂 茂 

日本救急医学会関東地方会看護部会会則

改正前

(名称)

第1条 本会の名称は、日本救急医学会関東地方会看護部会と称する。

(目的)

第2条 本部会は、学研的立場に立って、救急看護の質の向上と発展をめざすことを目的とする。

(活動)

第3条 本部会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1)本部会は、医師部会と協力して学会を開催する。
- (2)本部会は、必要に応じて研修会を開催する。

(会員)

第4条 日本救急医学会関東地方会に属する看護婦(士)を以て会員とする。

(資格)

第5条 本部会の会員は看護婦(士)であり、入会により資格を取得し、退会により資格を失う。

(運営委員会)

第6条 看護部会の目的達成のために下記の運営委員会を置き、必要な活動を行う。

- (1)運営委員 10～15名を置く、その内訳は幹事3名、編集委員6名とする。
- (2)新運営委員は、運営委員の推薦に基づき、運営委員会の賛同を得て選出される。
- (3)運営委員の退任時は、学会開催の2ヵ月前に幹事に申し出る。
- (4)運営委員退任時は運営委員会に出席し、運営委員会の了解を得る。

(運営委員会の活動)

第7条 運営委員会は下記の活動を行う。

- (1)日本救急医学会関東地方会の学会の企画・運営に協力する。
- (2)学会誌に掲載する研究原稿の校正を行う。
- (3)必要に応じて、研修会の企画・運営を行う。
- (4)看護部会運営に関する諸事項について検討する。
- (5)必要に応じて、日本救急医学会看護部会との連携を図る。

改正後

(名称)

第1条 本会の名称は、日本救急医学会関東地方会看護部会と称する。

(目的)

第2条 本部会は、学研的立場に立って、救急看護の質の向上と発展をめざすことを目的とする。

(活動)

第3条 本部会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1)本部会は、医師部会と協力して学会を開催する。
- (2)本部会は、必要に応じて研修会を開催する。

(会員)

第4条 日本救急医学会関東地方会に属する看護師を以て会員とする。

(資格)

第5条 本部会の会員は看護師であり、入会により資格を取得し、退会により資格を失う。

(運営委員会)

第6条 看護部会の目的達成のために下記の運営委員会を置き、必要な活動を行う。

- (1)運営委員会は、編集委員1名を含む10名以内で構成し、委員長1名、副委員長1名をおく。
- (2)新運営委員は、運営委員の推薦に基づき、運営委員会の賛同を得て選出される。
- (3)運営委員の退任時は、学会開催の2ヵ月前に幹事に申し出る。
- (4)運営委員退任時は運営委員会に出席し、運営委員会の了解を得る。

(運営委員会の活動)

第7条 運営委員会は下記の活動を行う。

- (1)日本救急医学会関東地方会の学会の企画・運営に協力する。
- (2)削除
- (3)必要に応じて、研修会の企画・運営を行う。
- (4)看護部会運営に関する諸事項について検討する。
- (5)必要に応じて、日本救急医学会看護部会との連携を図る。

(任期)

第8条 運営委員の任期は2年とする,但し再任は妨げない。運営委員の改選は奇数年の6月とする。委員は任期終了後も後任者が決定するまでは,その職務を代行する。

(学会開催)

第9条 学会の開催に関する実質的な運営は,開催施設に一任する。

(事務局)

第10条 本会の事務局は, 東京女子医科大学病院救命救急センターに置く。

(会則改正)

第11条 本部会の会則改正には,運営委員会の3分の2以上の賛成を必要とする。

附則 本会則は,平成8年6月24日に,昭和60年2月23日発効の内規から会則に改め発効する。
内規発行 昭和60年2月23日
会則に改定 平成8年6月24日

(任期)

第8条 運営委員の任期は2年とする,但し再任は妨げない。

(学会開催)

第9条 学会の開催に関する実質的な運営は,開催施設に一任する。

(事務局)

第10条 本会の事務局は, へるす出版事業部内に置く。

(会則改正)

第11条 本部会の会則改正には,運営委員会の3分の2以上の賛成を必要とする。

附則 本会則は,平成8年6月24日に,昭和60年2月23日発効の内規から会則に改め発効する。
内規発行 昭和60年2月23日
会則に改定 平成8年6月24日
一部改定平成24年1月20日

救急隊部会報告

1、 第49回救急隊員学術研究会

開催日時：

平成24年1月27日、午前9時～午後5時

開催場所：

日本青年館大ホール

参加人数：	1,002人
救急隊員	963人
医師	3人
看護師	1人
その他	35人

プログラム：

教育講演 2題

- ・ 福島第一原子力発電所放射能漏れ事故を踏まえたN災害の対応要領
演者：山口芳裕（杏林大学医学部救急医学）
司会：水野晋一（東京消防庁）
- ・ 災害医療派遣チーム DMAT の現状とその活動
演者：大友康裕（東京医科歯科大学医学部救急医学分野）
司会：白鳥高浩（静岡市消防局）

シンポジウム 2題

- ・ 特殊災害における活動
座長：堀 進悟（慶應義塾大学医学部救急医学）
平中 隆（横浜市消防局）
- ・ 東日本大震災における活動報告
座長：中島 康（都立広尾病院救命救急センター、外科・救急診療科）
木内 雅人（長野市消防局）
助言者：長谷川 学（消防庁救急企画室）

一般演題 6題

ランチョンセミナー 2題

- ・シミュレーターを活用した救急隊員への教育技法
インストラクター：山崎元靖（済生会横浜市東部病院救命救急センター）
共催：レールダルメディカルジャパン株式会社
- ・新ガイドラインとニューテクノロジー
演者：坂本哲也（帝京大学医学部救命救急センター）
座長：山口芳裕（杏林大学医学部救急医学）
共催：日本光電工業株式会社

2、 その他

第 62 回日本救急医学会関東地方会幹事会 SOS-KANTO 委員会報告

1. SOS-KANTO 2012 Study が平成 24 年 1 月 1 日午前 0 時より開始
2. 現時点での参加施設は全 65 施設（下記参照）、解析班（解析テーマ内容）が 102 件申請
3. 平成 23 年度第 1 回常任幹事会にて SOS-KANTO 委員会規則が承認（添付）
4. 平成 23 年 10 月 20 日（木）に平成 23 年度第 2 回 SOS-KANTO 委員会全体会議が東京医科大学病院会議室で開催（第 39 回日本救急医学会総会・学術集会中）
5. 平成 23 年 12 月に、堀常任幹事長より、日本救急医学会関東地方会救急隊員部会（全国消防長関東支部長）に SOS-KANTO2012 Study の参加協力を正式依頼
6. 平成 23 年 12 月発行日本救急医学会関東地方会雑誌第 32 巻に SOS-KANTO2012 Study についてのお知らせを掲載。ホームページにも掲載。
7. 平成 24 年度第 1 回常任幹事会にて、本研究のための臨時事務員を関東地方会にて雇用することが決定。

参加施設（平成 24 年 1 月 25 日現在）

東海大学医学部付属病院, 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院, 江東病院, 埼玉医科大学総合医療センター, 川崎市立川崎病院, 横浜市立市民病院, 前橋赤十字病院, 順天堂大学医学部附属浦安病院, 獨協医科大学越谷病院, 東京医科大学八王子医療センター, 東京女子医科大学病院, 君津中央病院, 千葉大学医学部附属病院, 済生会宇都宮病院, 水戸済生会総合病院, 獨協医科大学病院, 横浜市立大学附属市民総合医療センター, 国立病院機構横浜医療センター, 国立病院機構災害医療センター, 山梨県立中央病院, 駿河台日本大学病院, 横浜労災病院, 公立昭和病院, 日本医科大学多摩永山病院, 東京女子医科大学附属八千代医療センター, 安房地域医療センター, 戸田中央総合病院, 日本赤十字社医療センター, 聖路加国際病院, 昭和大学病院, 戸塚共立第 1 病院, 北里大学病院, 聖マリアンナ医科大学病院, 国立病院機構水戸医療センター, 東京都立多摩総合医療センター, 昭和大学藤が丘病院, 群馬大学医学部附属病院, さいたま赤十字病院, 東京都立墨東病院, 日本医科大学付属病院, 慶應義塾大学病院, 千葉県救急医療センター, 帝京大学医学部附属病院, 武蔵野赤十字病院, 国立国際医療研究センター, 東京警察病院, 東京医科歯科大学医学部附属病院, 順天堂大学医学部附属練馬病院, 日本大学医学部附属板橋病院, 帝京大学ちば総合医療センター, 東邦大学医療センター大橋病院, 済生会横浜市東部病院, 足利赤十字病院, 日本医科大学武蔵小杉病院, 東京労災病院, 東邦大学医療センター大森病院, 平塚市民病院, 横須賀共済病院, 済生会横浜市南部病院, 日本医科大学千葉北総病院, 東京都立小児総合医療センター, 国立成育医療研究センター, 千葉市立青葉病院, 久喜総合病院, 成田赤十字病院,

日本救急医学会関東地方会 SOS-KANTO 委員会規則

第1条 (名称)

本委員会はSOS-KANTO委員会(以下、本委員会と略す)とし、日本救急医学会関東地方会に所属する委員会とする。

(英名:SOS-KANTO committee)

(SOS-KANTO: survey of survivors of out-of-hospital cardiac arrest in the Kanto region of Japan)

第2条 (目的)

本委員会はウツタイン様式を用いた病院外心肺停止患者の記録を集積し、病院外心肺停止患者に対する心肺蘇生の救命効果を疫学的に分析すること等により、関東地方における救急医療の進歩発展に貢献することを目的とする。

第3条 (事業)

本委員会は、第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 病院外心肺停止患者記録に関する調査内容の検討
- (2) 病院外心肺停止患者記録の集積
- (3) 集積した記録の統計学的分析
- (4) 統計学的分析結果の取り扱いに関する検討
- (5) 委員会での成果を日本救急医学会関東地方会学術集会に報告する
- (6) その他委員会が必要と認めた事項

第4条 (本委員会の構成)

本委員会は委員長1名、統計解析責任者1名以上、研究班班長若干名、本会の目的に賛同した日本救急医学会関東地方会に所属する施設代表者で構成される。

第5条 (委員長および委員の任命)

- 1) 委員長は、日本救急医学会関東地方会幹事の中から常任幹事会が推薦し、幹事会の議を経て常任幹事長が委嘱する。
- 2) 委員は、日本救急医学会関東地方会に所属する施設責任者もしくは施設責任者の推薦を受けた施設代表者とし、常任幹事会の議を経て常任幹事長が委嘱する。

第6条 (任期)

委員長および委員の任期は1期3年とし、再任を妨げない、但し、連続3期(6年)を超えることはできない。

第7条 (欠員の補充)

委員に欠員を生じたときは、第5条の手続きで速やかにこれを補充する。なお、その任期は前任者の残余期間とする。

第8条（規則の変更）

本委員会の規則は、委員会の議を経て、常任幹事会の承認によって変更することができる。

付則

この規則は平成23年7月15日より施行する。

2011年『日本救急医学会関東地方会雑誌』第32巻 掲載報告

2012年1月24日

編集委員長 森村 尚登

1) 投稿論文数

全投稿数：82本（医師部会：69本，看護部会：12本，救急隊員学術研究会：1本）

	論文数	備考
2011年学会全発表数	213件 (医師部会：170件，看護部会：26件， 救急隊員学術研究会：17件)	投稿率：38.0%
辞退・未着	132本	
2011年発表論文投稿数	81本 (医師部会：68本，看護部会：12本， 救急隊員学術研究会：1本)	
2010年発表論文数	1本（医師部会）	

【参考：投稿率の推移について】

	2006年 27巻	2007年 28巻	2008年 29巻	2009年 30巻	2010年 31巻	2011年 32巻
学会発表数	189	230	211	212	193	213
辞退・未着	93	155	116	123	101	132
投稿数	96	75	95	89	92	81
投稿率	50.8%	32.6%	45.0%	42.0%	47.7%	38.0%

2) 掲載論文数

	論文数
掲載論文数	79本 (医師部会：68本，看護部会：10本， 救急隊員学術研究会：1本)
再投稿依頼	0本
投稿辞退	3本 (医師部会：1本，看護部会：2本)

3) 広告数

1社（広告依頼数 全 21社）

4) 2011年の編集スケジュール

2月5日	第一回編集委員会。2011年の編集スケジュール・方針を決定。
2月5日～	論文投稿受付。
3月4日	医師部会・看護部会の発表者に対し督促。
7月～8月	各編集委員は投稿論文のチェックを行い、問題のある論文を抽出。
8月17日	第二回編集委員会。論文の修正点を確認。
8月31日	第三回編集委員会。論文の修正点を確認。
9月上旬	編集委員によって抽出された問題のある論文80本を著者に戻し、修正を依頼。
10月	修正原稿が届いていない論文について督促。
11月	著者による修正を編集委員が確認。
11月～12月	メールにて著者に対し再修正依頼。
12月7日	責了。
12月22日	完成，発送。

以上

日本救急医学会関東地方会雑誌 投稿規定

(平成 23 年 8 月改正)

※日本救急医学会関東地方会では、学会発表の内容を「II 発表論文」として本誌に掲載しています。編集委員会から指示があった場合にのみ「I 原著論文・総説・症例報告」としてご執筆下さい。

- I 原著論文・総説・症例報告（特別講演，シンポジウム，パネルディスカッションならびに一般演題の中で編集委員会が特に優秀として選考したものに限り。）
1. 本誌は日本救急医学会関東地方会の機関誌であり，筆頭著者および共著者は関東地方会の会員であることを要します。
 2. 原稿掲載の採否，掲載順序は編集委員会で決定します。
 3. 本誌に掲載された著作物の著作権は，日本救急医学会関東地方会に帰属させていただきます。
 4. 原則としてコンピューターを使用し，A4 の用紙に印刷した原稿を，必ずテキストファイルまたは Word ファイルと一緒に提出して下さい（メール添付でも受付可）。記録メディアは CD-R，USB メモリー，MO 等のいずれでも結構ですが原則として返却はいたしません。
 5. 原稿は図，表，文献を含め，原稿用紙 25 枚（症例報告は 15 枚）以内とし，規定をこえた分は実費をいただきます。なお，図，表，写真各 1 枚は原稿用紙 1 枚として下さい。また，大きい図，表，写真の場合は原稿用紙 2 枚として下さい。図・表は必ず番号とタイトルが分かるようにして添付して下さい。写真は手札大にして別紙に添付するか，JPEG などの形式のファイルにし，なるべく高解像度で提出して下さい。
 6. 原著論文の本文は，「はじめに（序文・緒言）」，「目的」，「方法」，「結果」，「考察」，「おわりに（結語）」の順に記述して下さい。また，症例報告については，「はじめに（序文・緒言）」，「症例」，「考察」，「おわりに（結語）」の順に記述して下さい。なお，「倫理的配慮」の項目を設ける場合には 1 項目として独立させて下さい。
 7. **必ずキーワードを入れて下さい。キーワードにはタイトル中の文言を用いず，適切な言葉を 3～5 語選択して下さい。**
 8. 400 字以内の和文要旨と 100 語以内の英文要旨をつけて下さい。総説の場合，要旨をつける必要はありません。同時に英文で所属，著者名，題名も併記して下さい。
 9. 文中の外国語は原則として小文字で書いて下さい。ただし，文頭および固有名詞は大文字で書いて下さい。
 10. 数字はアラビア数字を用い，度量衡の単位は CGS 単位で kg，g， μ g，cm，mm，ml などとして下さい。年月日などを記載する場合は個人情報保護に留意して下さい。必要に応じて編集委員会で修正を加えることがあります。略語は初めての時は略さず，（ ）内に以下某として下さい。
例：Injury Severity Score(以下 ISS)
 11. 文献は主要文献のみとし，本文中に上肩付した引用番号順に配列して下さい。誌名の省略法は Index

Medicus および医学中央雑誌に準じ、著者は3名までを記載し、4名以降は他、et al として下さい。書籍において、編集責任者が2名以上の時は他編、eds として下さい。文献の記載方法については以下の形式を厳守して下さい。

1) 雑誌（和洋誌とも同じ）

著者名：題名．誌名 発行年；巻：頁（始—終）．

例：Davison R, Barresi V, Parker M et al : Intracardiac injections during cardiopulmonary resuscitation. A low risk procedure. JAMA 1980 ; 244 : 1110-1111.

Moss AJ, Davis HT, DeCamilla J et al : Ventricular ectopic beats and their relation to sudden and nonsudden cardiac death after myocardial infarction. Circulation 1979 ; 60 : 998-1003.

吉井 宏, 山本修三, 茂木正寿 他 : Injury Severity Score とその有用性. 救急医 1983 ; 7 : 1087-1092.

2) 書籍（和洋書とも同じ）

著者名：題名．編集責任者，書名．発行地：発行所，発行年；頁（始—終）．

例：Moore-Ede MC : Hypothermia a timing disorder of circadian thermoregulatory rhythms?
In : Pozos RS eds, The nature and treatment of hypothermia. Minneapolis : University of Minnesota Press, 1983 ; 69-80.

入野忠芳, 渡辺 学 : 意識障害の判定と対策. 三井香児編, 脳神経疾患の救急初期治療. 東京 : 南山堂, 1983 ; 62-74.

3) 電子媒体（インターネット）

著者名：題名．ウェブアドレス，アクセス日，年．

例：Marion DW, Dommeier R, Dunham CN et al : Practice management guidelines for identifying cervical spine injuries following trauma. Available online at:
<http://www.east.org>. Accessed July 1, 2000.

12. 別刷は50部まで無料贈呈しますが、それ以上は50部単位で実費を負担していただきます。

13. 原稿は郵送の場合、必ず書留便で下記宛にお送り下さい。

<送り先>

〒164-0001 中野区中野 2-2-3

株式会社へるす出版事業部

日本救急医学会関東地方会事務局

Mail:qq_kanto@herusu-shuppan.co.jp

II 発表論文

日本救急医学会関東地方会の発表論文については上記に準じますが、以下の点が異なります。

- 1) 地方会の発表内容を論文形式にまとめ、学会当日に受付に提出して下さい。
- 2) 原稿は図・表・文献を含め原稿用紙10枚以内とし、文献は5つ以内を厳守して下さい。規定枚数の超過は認められません。和文要旨と英文要旨の必要はありません。
- 3) 別刷は原則として作製しませんが、御希望の方は原稿提出時に50部単位で申し出て下さい。実費

を負担していただきます。

編集委員長

森村 尚登

編集委員

池田 弘人, 雅楽川 聡, 大高 祐一, 金井 尚之,
小井土雄一, 佐藤 陽二, 並木 淳, 萩原 章嘉,
原田 知幸, 弘重 壽一, 山崎 元靖

(看護部)

浅香えみ子, 佐藤 憲明, 木澤 晃代, 黒田 啓子

第63回日本救急医学会関東地方会および第50回救急隊員学術研究会

会長：坂本哲也（帝京大学医学部救急医学講座主任教授）

テーマ：「変革期を迎えた救急を見据える」

日本救急医学会関東地方会

会期：2013年2月16日（土）

会場：帝京大学医学部臨床大講堂（448人収容）

帝京大学医学部・医療技術学部教室（200人収容）5室
（東京都板橋区加賀2-11-1）

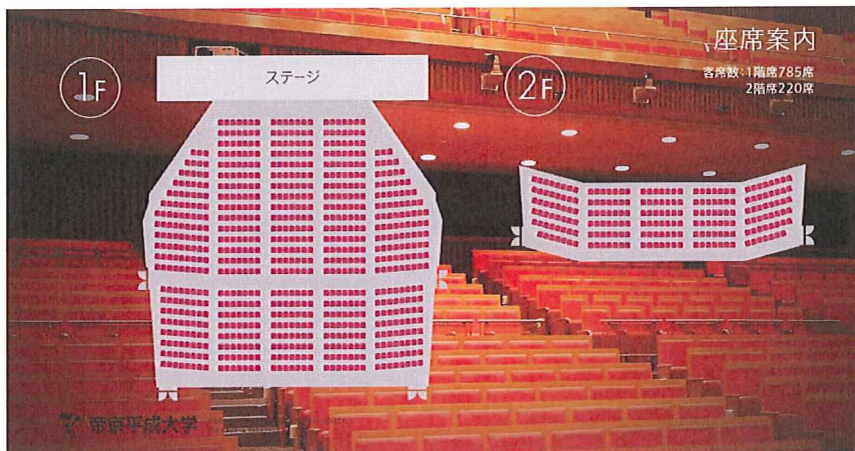


救急隊員学術研究会

会期：2013年2月8日（金）

会場：帝京平成大学池袋キャンパス沖永記念ホール（1000人収容）

（東京都豊島区東池袋2-51-4）



学会事務局長：池田弘人

日本救急医学会関東地方会 2012年度予算(案)
(2012年1月1日～2012年12月31日)

【収入の部】

科目	2012年度予算	2011年度決算
会費収入	6,000,000	6,403,000
雑収入		
広告掲載料	250,000	50,000
銀行預金利息	2,000	593
その他	100,000	52,642
収入合計	6,352,000	6,506,235

【支出の部】

科目	2012年度予算	2011年度決算
事業費		
刊行費(発送費を含む)	2,500,000	2,558,561
地方会補助費	2,000,000	2,500,000
会議費	500,000	537,674
交通費	200,000	284,920
印刷費	100,000	93,495
ホームページ運営費	261,555	261,555
SOS-KANTO2012	345,750	-
事務費		
通信費	250,000	385,915
業務委託費	672,000	672,000
消耗品費	50,000	62,441
租税公課	20,000	0
振込手数料	10,000	11,275
予備費	500,000	200,000
支出合計	7,409,305	7,567,836
収支	-1,057,305	-1,061,601
前年度繰越金	17,599,004	18,660,605
次年度繰越金	16,541,699	17,599,004

名誉会員候補者名簿

(敬称略 五十音順)

石田 清	第 15 回 (昭和 58 年) 会長
市来寄 潔	第 50 回 (平成 13 年) 会長
梅園 明	第 20 回 (昭和 61 年) 会長
葛西 猛	第 53 回 (平成 15 年) 会長
黒川 顯	第 52 回 (平成 14 年) 会長
都築 正和	第 17 回 (昭和 59 年) 会長
中田 義隆	第 26 回 (平成元年) 会長
原口 義座	平成 10 年～常任幹事長, 平成 13 年～監事
針谷 英世	第 24 回 (昭和 63 年) 会長

日本救急医学会関東地方会会則 (抜粋)

第3章 会員

(構成)

第5条 本会は、次の会員によって構成する。

- (2) 名誉会員：本会の発展に特に功労のあった者で、別に定める細則により推薦され、承認された者

日本救急医学会関東地方会会則施行細則 (抜粋)

第5章 名誉会員

第21条 名誉会員は、常任幹事が推薦し、幹事会の承認を要する。

第22条 名誉会員は、幹事会に出席し、意見を述べるができるが、議決に加わることは出来ない。

2 名誉会員の推戴要件は、以下の通りとする。

- (1) 役員経験者であること
- (2) 65歳以上であること
- (3) 本人に名誉会員となる意思があること

名誉会員名簿

饗場 庄一	荒木 駿二	上田 守三	上松瀬 勝男
小林 國男	佐々木 仁也	島崎 修次	杉山 貢
鈴木 忠	高橋 愛樹	中江 純夫	平澤 博之
前川 和彦	松田 博青	茂木 正壽	矢崎 誠治
山本 保博	渡辺 晃	相川 直樹	小池 荘介
林 成之	辺見 弘	山中 郁男	芦川 和高
大和田 隆	野口 照義	山本 修三	

日本救急医学会関東地方会 歴代会長 一覧

	会期年月	会長	所属
第1回	S51(1976)年4月	故 織畑 秀夫	東京女子医科大学
第2回	S52(1977)年2月	故 大内 正夫	済生会神奈川県病院
第3回	S52(1977)年6月	故 飯島 登	聖マリアンナ医科大学
第4回	S53(1978)年2月	故 丹羽 直久	武蔵野赤十字病院
第5回	S53(1978)年6月	西邑 信男	日本医科大学
第6回	S54(1979)年2月	佐々木 仁也	都立墨東病院
第7回	S54(1979)年6月	故 亀谷 寿彦	東邦大学
第8回	S55(1980)年2月	故 若林 利重	東京警察病院
第9回	S55(1980)年6月	故 田中 隆	日本大学駿河台病院
第10回	S56(1981)年2月	故 泉 周雄	国立東京第二病院
第11回	S56(1981)年6月	大和田 隆	北里大学
第12回	S57(1982)年2月	野口 照義	千葉県救急医療センター
第13回	S57(1982)年6月	松田 博青	杏林大学
第14回	S58(1983)年2月	渡辺 晃	国立水戸病院
第15回	S58(1983)年6月	石田 清	埼玉医科大学
第16回	S59(1984)年2月	故 矢沢 知海	都立広尾病院
第17回	S59(1984)年6月	都築 正和	東京大学
第18回	S60(1985)年2月	故 大島 武雄	伊勢崎総合保健センター
第19回	S60(1985)年6月	故 大塚 敏文	日本医科大学
第20回	S61(1986)年2月	梅園 明	済生会宇都宮病院
第21回	S61(1986)年6月	小林 國男	帝京大学
第22回	S62(1987)年2月	故 高橋 勝三	武蔵野赤十字病院
第23回	S62(1987)年6月	故 八木 義弘	順天堂大学浦安病院
第24回	S63(1988)年2月	針谷 英世	大宮赤十字病院
第25回	S63(1988)年6月	芦川 和高	聖マリアンナ医科大学
第26回	H1(1989)年2月	中田 義隆	筑波メディカルセンター
第27回	H1(1989)年6月	故 三村 一夫	防衛医科大学校
第28回	H2(1990)年2月	荒木 駿二	公立昭和病院
第29回	H2(1990)年6月	故 上嶋 権兵衛	東邦大学
第30回	H3(1991)年2月	山本 修三	済生会神奈川県病院

第31回	H3(1991)年6月	平澤 博之	千葉大学
第32回	H4(1992)年2月	故 村松 正久	江東病院
第33回	H4(1992)年6月	高橋 愛樹	昭和大学藤が丘病院
第34回	H5(1993)年2月	島崎 修次	杏林大学
第35回	H5(1993)年6月	小池 莊介	東京医科大学
第36回	H6(1994)年2月	故 隣谷 義人	埼玉医科大学
第37回	H6(1994)年6月	上田 守三	東海大学
第38回	H7(1995)年2月	矢崎 誠治	日本大学駿河台病院
第39回	H7(1995)年7月	杉山 貢	横浜市立大学
第40回	H8(1996)年2月	鈴木 忠	東京女子医科大学
第41回	H8(1996)年6月	故 中村 紀夫	東京慈恵会医科大学柏病院
第42回	H9(1997)年2月	前川 和彦	東京大学
第43回	H9(1997)年6月	相川 直樹	慶應義塾大学
第44回	H10(1998)年2月	故 岡田 芳明	防衛医科大学校
第45回	H10(1998)年6月	故 相馬 哲夫	東京医科大学霞ヶ浦病院
第46回	H11(1999)年2月	山中 郁男	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
第47回	H11(1999)年6月	辺見 弘	国立病院機構東京災害医療センター
第48回	H12(2000)年2月	林 成之	日本大学
第49回	H12(2000)年6月	山本 保博	日本医科大学
第50回	H13(2001)年2月	市来 寄 潔	国立病院機構東京医療センター
第51回	H13(2001)年6月	饗場 庄一	前橋赤十字病院
第52回	H14(2002)年2月	黒川 顯	日本医科大学多摩永山病院
第53回	H15(2003)年2月	葛西 猛	亀田総合病院
第54回	H16(2004)年3月	有賀 徹	昭和大学
第55回	H17(2005)年2月	益子 邦洋	日本医科大学千葉北総病院
第56回	H18(2006)年2月	大橋 教良	筑波メディカルセンター
第57回	H19(2007)年2月	明石 勝也	聖マリアンナ医科大学
第58回	H20(2008)年2月	堤 晴彦	埼玉医科大学
第59回	H21(2009)年2月	行岡 哲男	東京医科大学
第60回	H22(2010)年2月	長尾 建	駿河台日本大学
第61回	H23(2011)年2月	相馬 一亥	北里大学
第62回	H24(2012)年2月	堀 進悟	慶應義塾大学
第63回	H25(2013)年2月	坂本 哲也	帝京大学
第64回	H26(2014)年		